

A L S 阻害剤交差抵抗性イヌホタルイの防除法

スルホニルウレア（S U）抵抗性雑草にも効果が高い新規のアセト乳酸合成酵素（A L S）阻害剤（プロピリスルフロンのピリミルスルファン・ペノキススラム等）が急速に普及している。

しかし近年、A L S 阻害剤に対しても抵抗性を示す（以下、A L S 阻害剤交差抵抗性）雑草の発生が認められており、県内でもA L S 阻害剤交差抵抗性イヌホタルイが確認されている。

1 A L S 阻害剤交差抵抗性イヌホタルイに対する防除法

新規A L S 阻害剤を適正使用したにも関わらず、特異的にイヌホタルイが残草した場合は、A L S 阻害剤交差抵抗性であることを疑う必要がある。

その場合は、イヌホタルイに対して効果が高くA L S 阻害剤と作用機作の異なる成分と、その成分を含む除草剤を使用する。有効成分及び散布適期は下記表の通り。

表 A L S 阻害剤交差抵抗性イヌホタルイに有効な成分一覧

有効成分	散布適期
ベンゾビシクロン	2～4 葉期 ^{注1)} まで
テフリルトリオン	2～4 葉期 ^{注1)} まで
ブロモブチド	2～3 葉期 ^{注1)} まで
クロメプロップ	2 葉期まで
シメトリン・M C P B	2～3 葉期 ^{注1)} まで

注1 除草剤ごとに異なる

注2 農薬登録は令和2年1月10日現在

2 参考文献

A L S 阻害剤交差抵抗性イヌホタルイの確認. 宮城県古川農業試験場・水田利用部. 普及に移す技術第89号/参考資料4 水稻（平成25年度）